

あとがき

目前に迫っている超高齢社会を見据えいくつかの事業を行ってまいりましたが、年頭初高齢化の知識に乏しい我々にとっては、何から調査・研究を進めるべきか非常に迷いました。高齢化問題については様々な要素が含まれており、我々が考えるには広すぎるテーマだと感じたからです。

そんな迷いの中で、思いだしたのが昨年（1996年）に [REDACTED] 研修旅行でおもむいたスウェーデンでした。スウェーデンはみなさんご承知の通り福祉国家として有名ですが、実際に現地を訪れ、見聞を広める中で日本とは違った面を見る事が出来ました。その一つとして、例を挙げるならば施設において要介護老人や障害者が、一般の人と一緒に自然に社会生活を行える場のある事でした。こうした視察の成果を踏まえ調査・研究に取り組む中で多くの方々のご協力を得て実感した事は、福祉に携わる方々それぞれの立場があり、現実に関問題と考えられる事の中でも自らによって解決できない事が数多くある事を知りました。日本の高齢社会を考えた場合、我々自身の問題でありながら自分の問題として現実的に考えずらくまた、現実を知らない事にも気づいたのです。そして将来を考えた時、次世代を担う子供たちへの教育も大きな問題であること。それらを変えようとするには我々自身の意識をかえることが、もっとも重要だと感じた結果がこの資料のまとめのページとなっております。そして、気づいた人から何か行動を起こしてみなければ何も変わることはないことを痛感し、それぞれが自分の意見を持ちながらも自己主張だけをするのではなく、相手の立場を理解する為に、意見を聴き入れて福祉の意味の一つである幸福を前提としたよりよい解決策を探る事が必要だと考えます。

この資料を作成するにあたり、多くのご協力を頂いた皆様方に [REDACTED]

[REDACTED] 御礼申し上げます。

[REDACTED]

[REDACTED]